

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191500214), 法人名 (医療法人社団 森生会), 事業所名 (グループホーム温もりの家 銀杏ユニット), 所在地 (北海道茅部郡森町字上台町330番地の12), 自己評価作成日 (平成25年10月18日), 評価結果市町村受理日 (平成25年12月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、当事業所は運営母体が医療機関であり隣接しているため、日頃から入居者様の健康状態について看護師や先生に相談できる環境にあります。
又、緊急時には先生が来て診て頂ける体制ができています。
その他月に二回往診があり健康状態を診て頂いている。
2、当事業所には常勤の栄養士がおり、食事の献立や栄養のバランスを考えた食事を提供している。
3、当施設周辺は緑が多く春には近くに桜を観に出掛けたり、秋には栗拾いに出掛けたり、紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を感じて過ごして頂ける環境です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2013\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年11月6日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は森町を横断する国道から南西方向に500m程入る郊外に位置し、自然豊かな場所にある平屋建て2ユニットのグループホームである。中央に事務室やトイレ、浴室などが配置され、玄関の両側に各ユニットの食堂・居間があり、中庭や共用部分を挟んで左右に居室が配置された、効率の良い導線が確保されている建物である。敷地内には菜園があり、職員と利用者が一緒に作業してスイカやトマト、きゅうりなどを収穫し、利用者の楽しみとなっている。また、同一法人の病院とグループホームが隣接しており、祭りなどの行事を合同で開催し、地域住民との交流の場となっている。開設から2年を経過し、職員は日々のケアに試行錯誤しながらも、思いやりと笑顔で利用者に寄り添って支援を行うよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-68 describe various service outcomes and staff performance metrics.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で理念を確認し意識を高めケアにあたられるよう心掛けている。	「社会貢献、思いやり、笑顔」を事業所の理念とし、玄関、事業所内に掲示している。毎日朝礼で確認し合い、理念を共有してケアの実践に繋げている。	毎月の会議で事例を検討するなどして、理念に基づく具体的な取り組みについて理解を深め、全職員で認識を共有することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事を行う際はボランティアの方を招いたり、地域の行事に出掛けたりしている。	町内会に加入し、森町の祭りなどに参加している。併設の病院とグループホームが合同で開催する盆踊り大会には、地域の方の大勢の参加がある。また、事業所主催の行事でボランティアが民謡やフラダンスを披露するなど、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の際に認知症状に対するのケアや対応等について説明したり、ご家族様には面会時に症状などお話をして理解して頂くよう心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は単独で当施設内で会議を行い、推進委員の方から意見や要望を伺い、実施したことは次の会議の際に報告している。	運営推進会議は、町担当者や地域包括支援センター職員、町内会長、家族代表などが参加して、定期的に開催されている。運営に関する意見や要望などを聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われ、推進委員からの意見や要望をサービスの向上に活かしている。今後は、家族に議事録を配布し、家族会などの設置や地域との協力体制の構築を検討するなど、運営推進会議を活かした取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行ったり、事故があった場合は必ず報告し、意見やアドバイスを頂いている。	運営推進会議に、町担当者や地域包括支援センター職員が参加している。空き室や利用者の状況の報告や相談などを通じて、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したり、職員会議の際に日々のケアや関わりについて確認や注意を行い、職員全体で取り組んでいる。	マニュアル等を整備している。外部研修会に参加し、その内容について職員会議で伝達講習を行い共有し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会議の際に確認と注意を促し一人ひとりが理解と意識を高められるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して理解を深められるよ努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず、需要事項を説明し理解して頂いてから契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に合わせ伺うよう努めている又、要望等記入できるように玄関に意見箱を設置している。	利用者の生活状況は、毎月「温もりの家便り」で家族に報告している。昨年、家族にアンケート調査を実施し、要望等を聞いている。玄関に意見箱を設置し、利用者・家族などの意見を聞く機会を設け、意見を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議では推進委員やご家族代表の意見を聞く機会を作り、頂いたご意見を参考に活かし次回の推進会議に報告している。	毎月の全体会議やユニットごとの会議で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎月の全体会議で施設長が理念や接遇について話すなど、職員間のコミュニケーションを良くするよう取り組み、職員が意見を出しやすいチームワークの構築に努めるとともに、施設長や管理者が職員の個人面談を定期的を実施し、職員の意見を聞く機会を設けることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種手当がついていたり、研修に係る費用等は事業所で負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行ったり、外部の研修会にも参加しやすい環境になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等場を利用し意見交換や情報収集を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に要望等伺い、ご家族と対応策や施設の方針等を話し合いながら理解、納得して頂きながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に必ず、ご家族様等から要望等伺い話し合いながら一緒に進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で面接を行い状況や状態の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事作業を行ったり、買い物に出掛けたり、ゆっくりお話をしたり一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時などは普段の様子をお話ししたり、買い物をお願いしたり、一緒に外出をお願いする等して繋がりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある商店で買い物をしたり、食事をしたり、美容室に出掛ける等して、馴染みのある場所や人との関わりを大切にしている。	日ごろから、家族や知人の面会がある。利用者の馴染みの商店や美容院へは職員が同行し、関係継続の支援を積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話ししやすいように座席等気を配ったり、レクリエーションに参加して頂いたり、耳が聞こえにくい方は職員が間に入りお話をする等手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に相談等あればいつでも連絡下さいとお話しはさせて頂いているが、積極的に関係性を継続しているとは言えない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、必ずご家族様から生活歴や意向等確認している。日々のケアの中から気付いたこと等話し合い検討している。	利用開始時に、本人や家族から思いや意向、生活歴や馴染みの物について聞き取っている。日々のケアの中で本人の希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前にご家族様や、関係者から情報を頂いている。入居されてからも面会時等に合わせご家族様に普段の様子などお話しをしたり、相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や状態の変化など引き継ぎで必ず伝え確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々職員が気づいたことや様子等記録したり、引き継ぎ等で伝えている。定期的に行うケア会議の中で必要なサービス内容等話し合い介護計画に反映している。	本人や家族の意見を聞き、日々のケアの記録などから全職員で検討して、計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングを2ヶ月ごとに実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を取り、その日行ったケアや入居者様の様子や状態を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて外泊支援や、ボランティアさんを活用したり対応策を話し合いながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出掛ける際は馴染みのあるお店を利用したり、役場等に用事がある時もあるべくご本人様と一緒に出向き繋がりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に運営母体ではる病院が隣接している事をお話した上でかかりつけ医になって頂いている。	母体法人が医療機関のため、利用開始時から併設の病院がかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療と毎日看護師の巡回があり、適切な医療の態勢を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師がホームへ来て、入居者様の健康状態をチェックしている。その他にも変化があれば随時連絡し指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、お見舞いの時など利用し担当の看護師から経過や様子を聞いたり、ご家族様からも様子など伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として終末期に向けた指針を居時に説明し同意書を頂いている、その時ご家族様の意向もお聞きしている。	重度化や終末期に向けた対応は、入居の契約時に説明し、本人や家族の同意を得ており、グループの病院の医師の指示の下、医療連携した体制で支援するよう取り決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制や対応についてマニュアルを作成し備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署に協力してもらい防火訓練や避難訓練を行っている、役割や連絡体制を整えスムーズに町内会にも協力して頂けるように話し合いを進めています。	マニュアルを整備しており、年2回消防署の指導の下、運営推進会議推進委員や地域の方などの協力により、夜間想定などの避難訓練を実施している。連絡網に地域の方を加えたり、備蓄品の種類・量などを増やすことを検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について研修会に参加したり、声かけや接する姿勢について話し合いを行い、自己決定の大切さについて意識している。	利用者の人格の尊重について、接遇の研修会に職員を参加させ、声掛けや接し方について職員で話し合い日々の支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる範囲でご本様に選んでいただけるように工夫している、好みに応じたり、作業などやって頂く場合も必ず意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で起床時間や食事の時間は個人のペースに合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべくご本人様に気温や季節に応じた洋服を選んでいただける様に心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食器洗い、下膳をお願いしてやっけていただいている。日々の食事では好みに応じた食事の提供が難しいので、行事等を利用してご本人様の好きな食事を摂って頂いている。馴染みのある音楽を流している。	栄養バランスを考えて栄養士が献立を作成し、職員が調理している。料理の下準備や食器洗い、菜園の作業などを利用者と職員と一緒にやっている。利用者の好みは、行事食や外食で取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量は管理表を作成しチェックしている、一人ひとりの状態を把握し、タイミングや好みを把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている、舌用ブラシやガーゼ等用意し個々にあったものを用意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を把握し、ご本人様にあった支援をしている、排泄管理表を作り必要な方には声掛けや誘導をしている。	排泄管理表を作成し、利用者の状態を把握している。一人ひとりの表情を確認し、声掛けで誘導して、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の形態や、好みの応じ、野菜ジュースやヨーグルトを勧めている、体操やレクを提供し運動の機会を作れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、なるべくご本様のタイミングで入って頂いている。	週三回入浴の機会があり、一人で入りたい方、仲の良い方と入りたい方等配慮し、時間帯は特に決めず、なるべくご本様のタイミングで入って頂いている。	浴室は広く、同時に2、3人の入浴が可能な大きな浴槽があり、仲の良い利用者が一緒に入浴するなど楽しみな入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には、家族に説得を依頼し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々に合わせ活動の機会を作っている、夜間はお部屋の明かり、室温、物音に気を付けて安眠に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容は全員分をファイルして各自で確認できるようにしている、予想される変化についても確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、食器洗いや掃き掃除等、行って頂いている、お菓子類等の嗜好品にも可能な範囲で応じ楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等の機会を作っている、普段行けないような所には行事を利用し出掛けるようにしている。	日常的に、職員が同行して事業所周辺や町内を散歩している。遠足や外食、牧場見学、花見などの外出行事を計画的に企画し、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人様で管理している方もいらっしゃいますし、買い物の時はご本人様に代金等の支払い等も行えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等のつながりを大切に、荷物が届いた際は電話をつないだり、その方の能力に応じお返事を書いたり出来る様にお手伝いをしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑い時には、ホールや自室で扇風機を使用したり、生活音にも気を付けて業務にあたっている、玄関やテーブルに花を飾り目で楽しんで頂いたり、季節感を感じられるようにしている。	浴室やトイレを中央に集約し、各ユニットを左右に配置した広くゆったりとした造りで、導線効率の良さが窺われる。共用空間は、採光や風通しも良く、明るい居間には季節の装飾や花などが飾られ、利用者が団欒の時間を過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	散歩の途中に休めるよう廊下の途中にはソファを置いたり、居間にもソファを用意しているので仲の良い方よくお話をされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使用している、身の回りの物等持ってきて使っていただいたり、自室には写真等飾ったり仏壇を置いている方もいらっしゃいます。	居室には、整理ダンス、収納、ベッドを設置している。使い慣れた物や仏壇などを持参して、居心地よく過ごせる居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必ず入所前、入所後のアセスメントを実施しご本人様の状態や身体機能の把握に支援にあたっている。		